
静岡銀行におけるリスク管理の取組み

平成26年2月12日
株式会社静岡銀行
リスク統括部

目次

I. 静岡銀行グループの概要	…1	・配賦対象取引とリスクの定義	…11
II. 静岡銀行グループのリスク管理体制		・部門取引区分	…12
・静岡銀行グループのコーポレートガバナンス体制図	…2	・リスク資本配賦計画の策定①	…13
・静岡銀行グループのコンプライアンス・リスク管理体制図	…3	・リスク資本配賦計画の策定②	…14
・リスク統括部の組織	…4	・リスク資本使用状況のモニタリング	…15
・市場リスク管理体制図	…5	<ストレステスト>	
・信用リスク管理体制図	…6	・ストレステスト①	…16
・オペレーショナルリスク管理体制図	…7	・ストレステスト②	…17
・リスク管理規程の体系図	…8	・ストレステスト③	…18
III. 統合的リスク管理(事例紹介)		・ストレステスト④	…19
<リスク資本配賦運営>		・ストレステスト⑤	…20
・平成25年度上半期リスク資本配賦運営実績	…9		
・リスク資本配賦運営の枠組み	…10		

静岡銀行グループの概要(平成25年9月30日現在)

<静岡銀行>

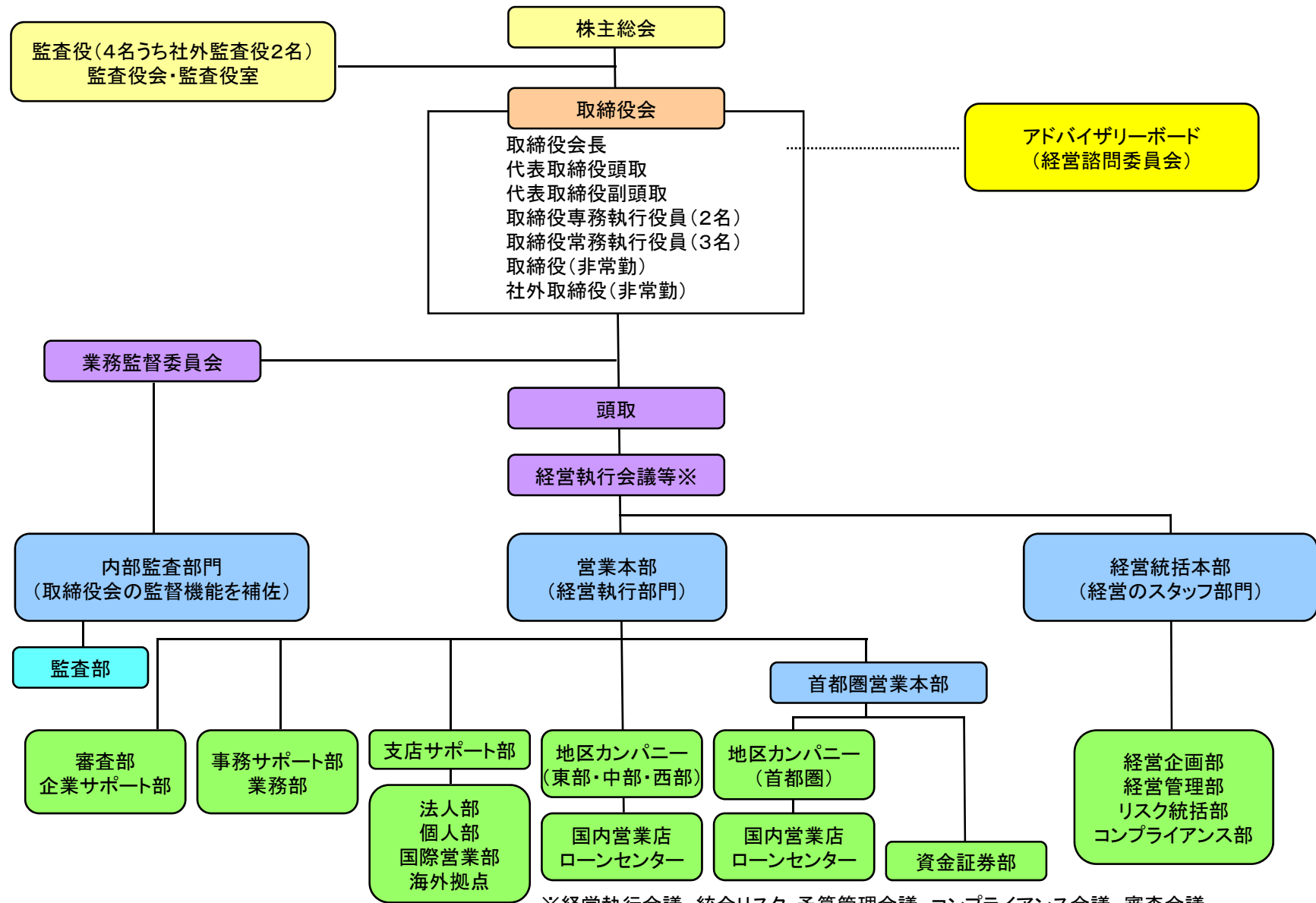
本店所在地	静岡市葵区呉服町1丁目10番地	
電話番号	054(261)3131	
設立年月日	昭和18年3月1日	
資本金	908億円	
主要勘定	貸出金	7兆1,398億円
	預金	8兆7,337億円
	総資産	10兆6,790億円
発行済株式数	665,129,069株	
自己資本比率(連結)	17.21%	
拠点数	200	
	静岡県内	172(本支店152・出張所20)
	静岡県外	23(支店19・出張所4)
	海外	5(支店3・駐在員事務所2)
外部格付	AA - / AA - 1+(S&P)、Aa3/P - 1(Moody's)	

<グループ会社>

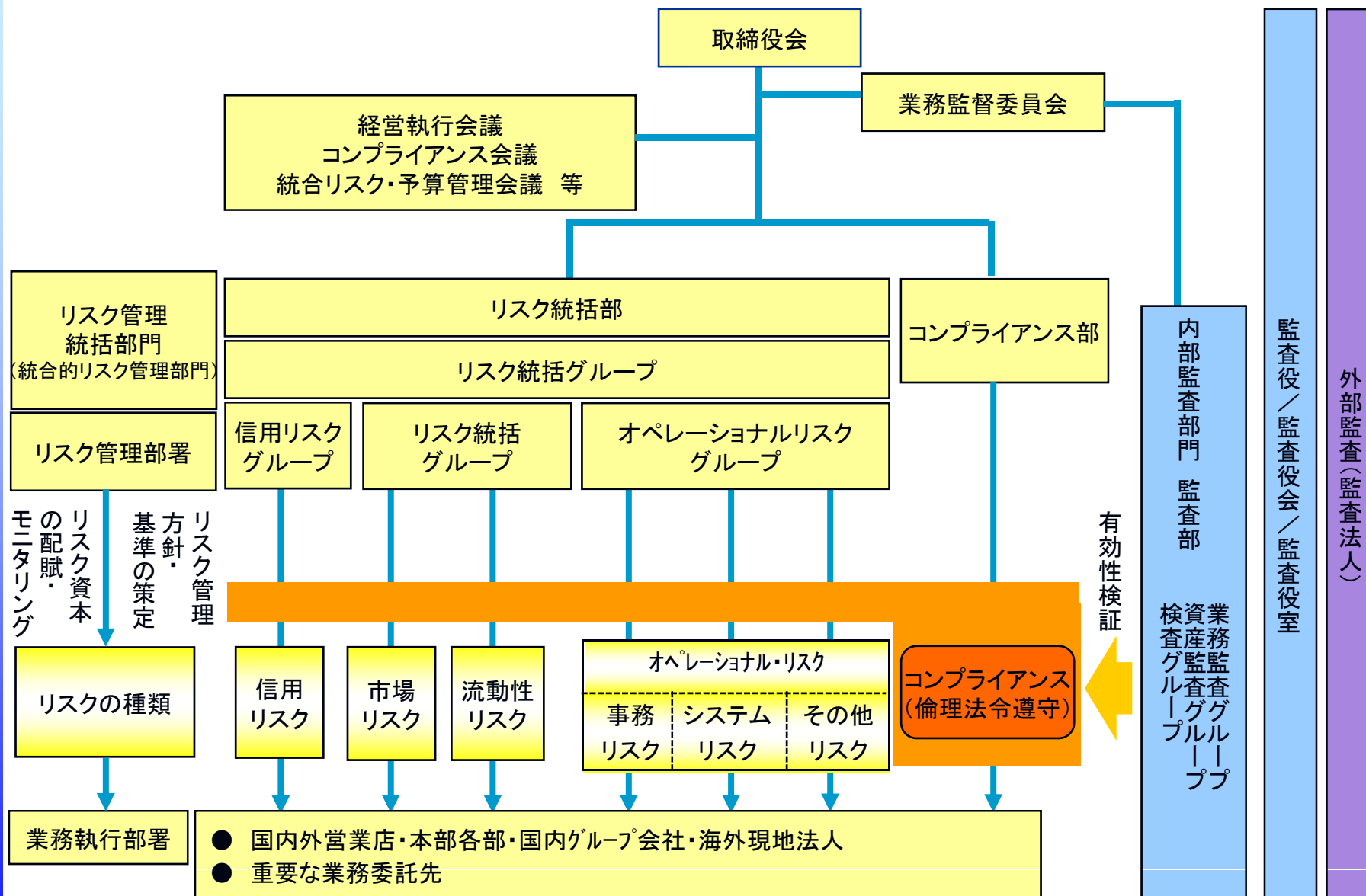
総合金融サービスを提供する会社	静岡経営コンサルティング株式会社 静岡リース株式会社 静岡コンピューターサービス株式会社 静岡信用保証株式会社 静岡ディーシーカード株式会社 静岡キャピタル株式会社 静岡ティーエム証券株式会社 欧州静岡銀行(海外現地法人) 静岡セゾンカード株式会社(持分法適用関連会社)
静岡銀行グループの業務を代行する会社	静岡総合サービス株式会社 静岡モーゲージサービス株式会社 静岡ビジネスクリエイト株式会社

Ⅱ. 静岡銀行グループのリスク管理体制

静岡銀行グループのコーポレートガバナンス体制図



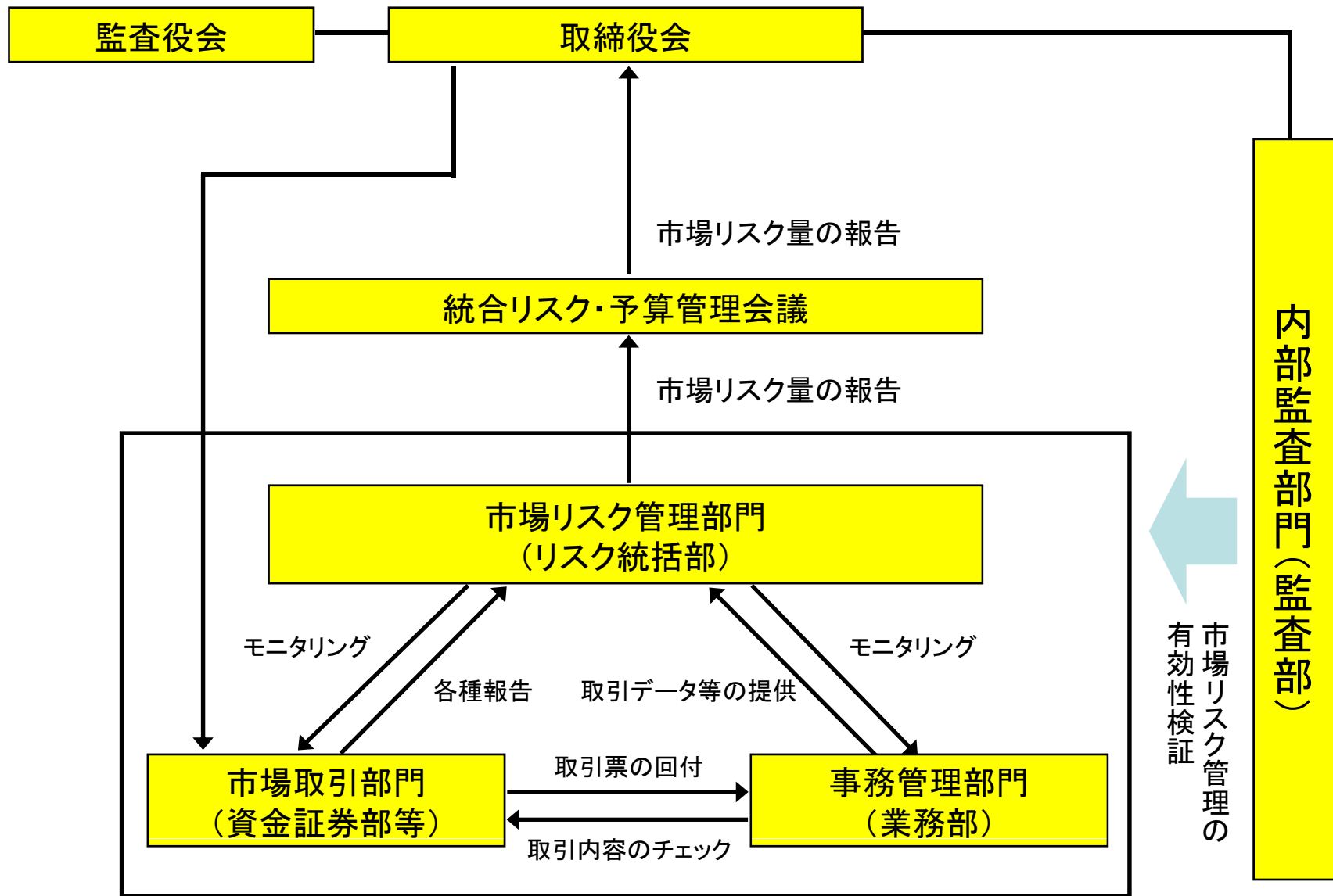
静岡銀行グループのコンプライアンス・リスク管理体制図



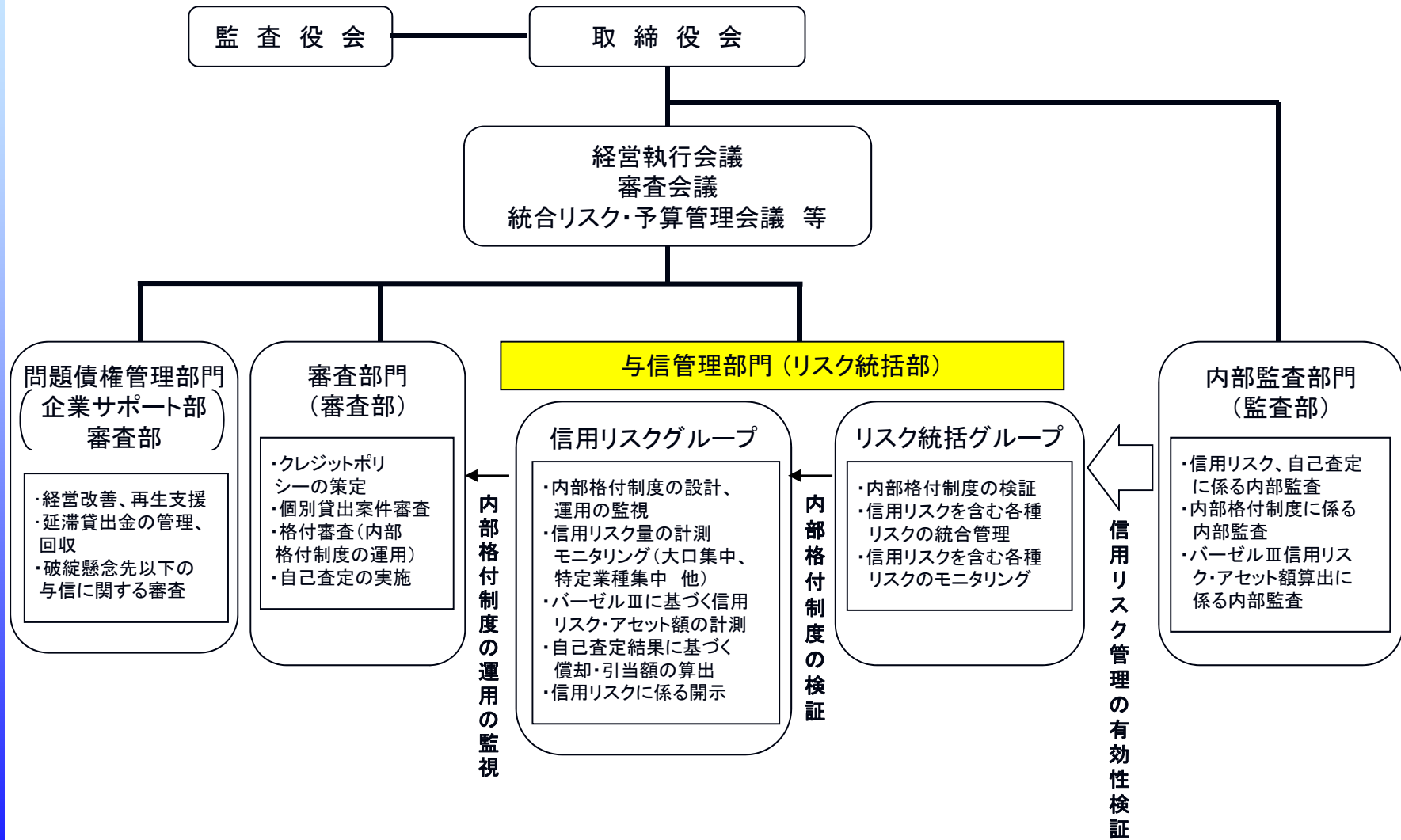
リスク統括部の組織

グループ名	担当するリスク管理
リスク統括グループ	<ul style="list-style-type: none">・統合的リスク管理・市場リスク管理・流動性リスク管理
信用リスクグループ	<ul style="list-style-type: none">・信用リスク管理・資産査定管理
オペレーショナルリスクグループ	<ul style="list-style-type: none">・オペレーショナルリスク管理の統括・事務リスク管理・システムリスク管理

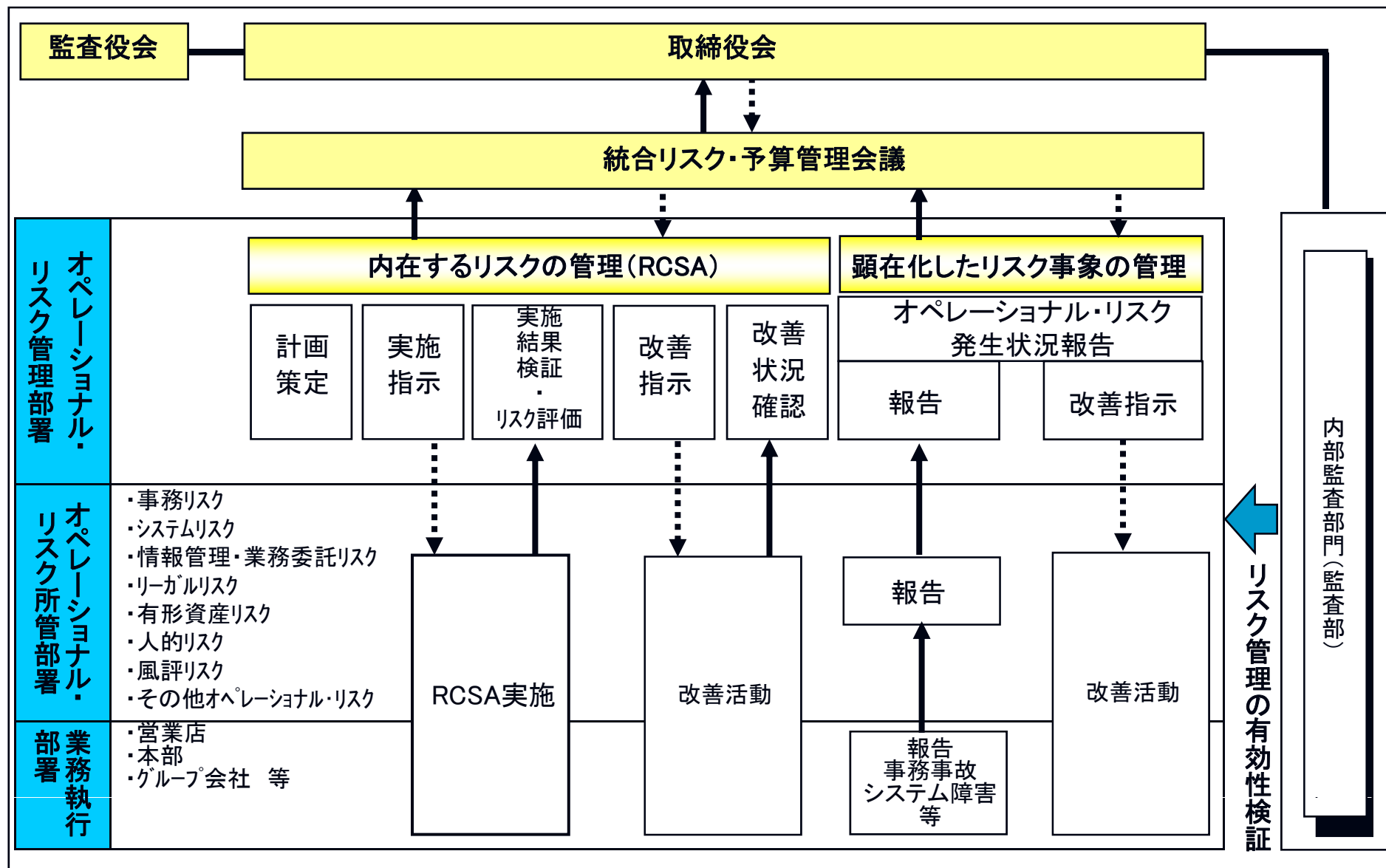
市場リスク管理体制図



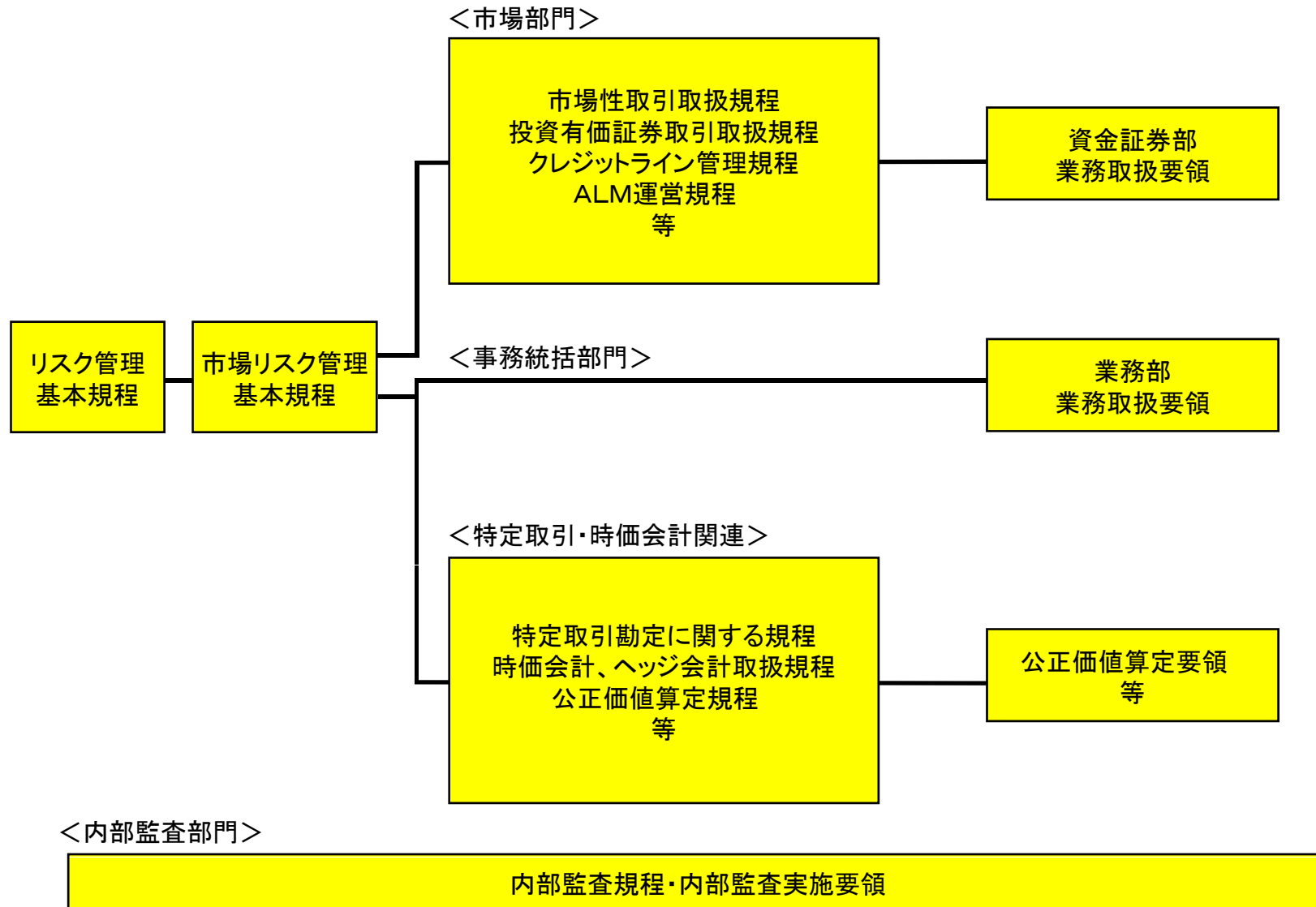
信用リスク管理体制図



オペレーショナルリスク管理体制図



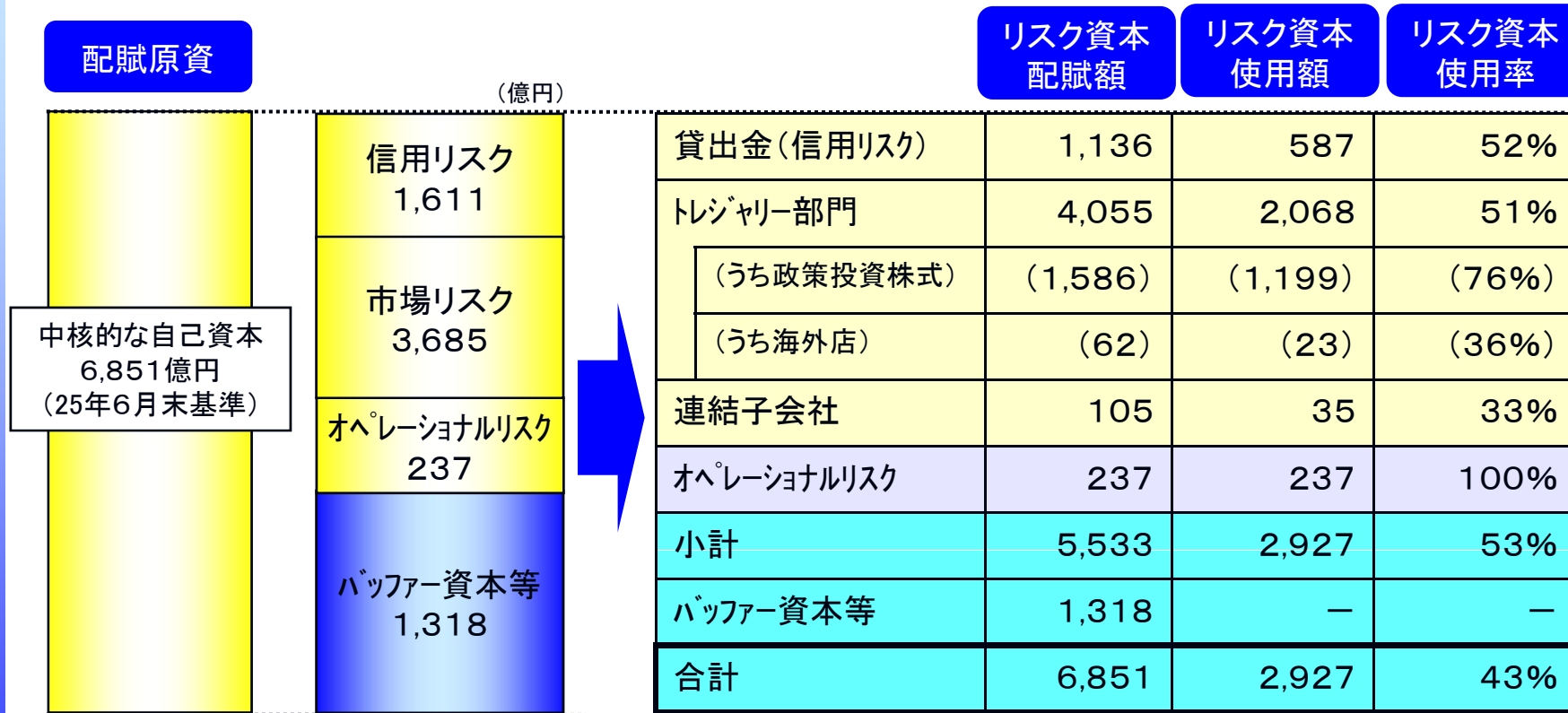
リスク管理規程の体系図(例:市場リスク管理)



Ⅲ. 統合的リスク管理(事例紹介)

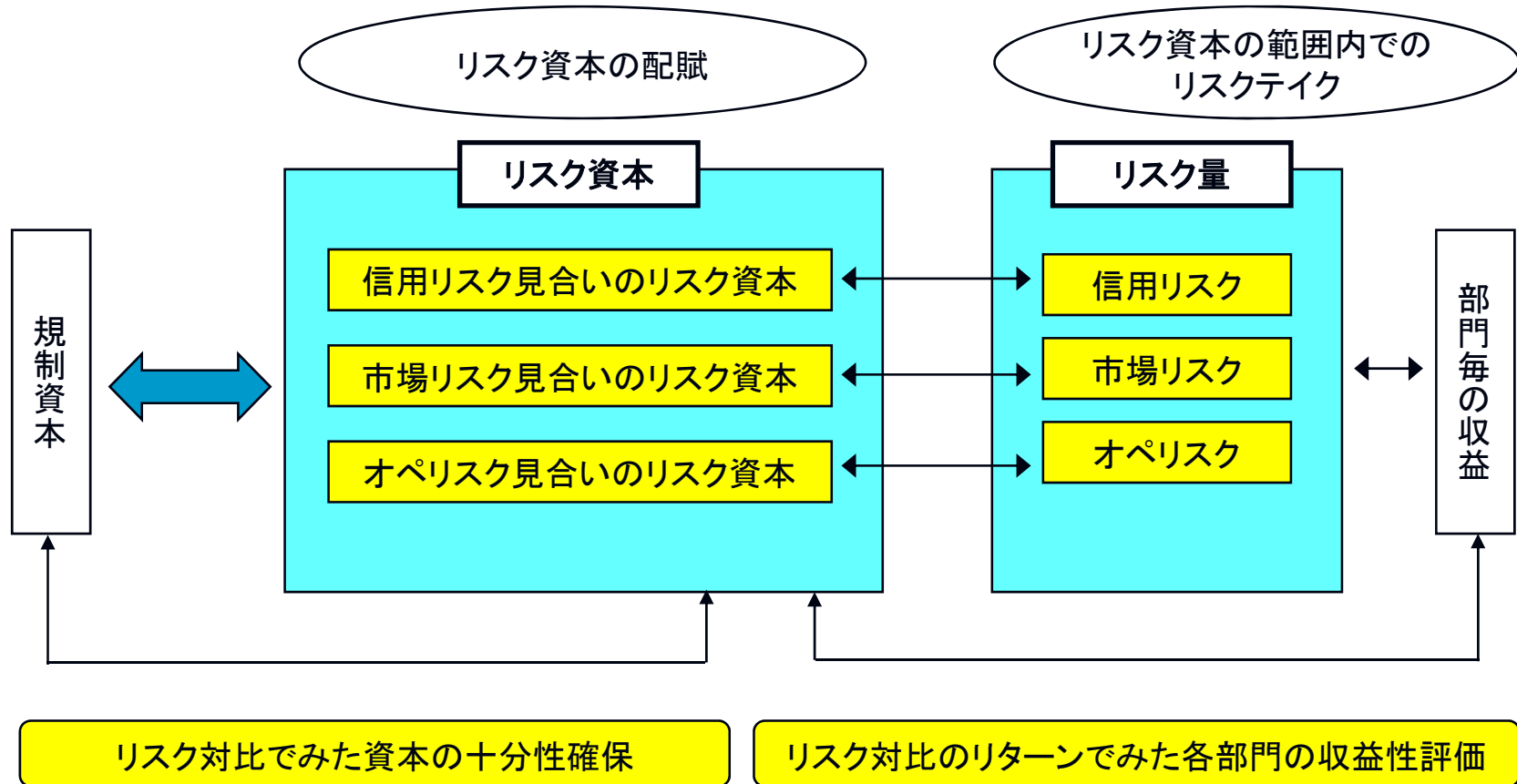
＜リスク資本配賦運営＞平成25年度上半期リスク資本配賦運営実績

- ・25年度上半期のリスク資本配賦額は6,851億円、うち信用リスク1,611億円、市場リスク3,685億円、オペレーショナルリスク237億円、バッファー資本1,318億円を配賦
- ・リスク資本使用額は、貸出金（信用リスク）587億円、トレジャリー部門2,068億円、等



- ・中核的な自己資本＝バーゼルⅢ普通株式等Tier I
- ・リスク資本使用額＝＜市場リスク＞ | VaR |
 ＜信用リスク＞① | UL | （貸出金は不良債権処理額、CVAを含む）
 ②バーゼルⅢ所要自己資本額(特定貸付債権、証券取引化、投資信託、投資事業組合)
 ＜オペレーショナルリスク＞オペレーショナルリスク相当額
- ・バッファー資本は、巨大地震等非常時や計量化できないリスク等への備え

リスク資本配賦運営の枠組み



配賦対象取引とリスクの定義

リスクの種類	配賦対象取引	リスク量の定義	配賦するリスク量算出の前提		
			保有期間※1	信頼水準※2	観測期間※3
市場リスク					
金利リスク	バンキング勘定 (預貸金、債権、資金取引)	市場VaR	6カ月	99%	5年
	価格変動リスク				
	トレーディング勘定		10日間		
信用リスク	貸出金※4	信用VaR (UL) ※5	1年	99.9%	1年
	債権、株式、資金取引 デリバティブ取引	信用VaR (UL)			
	特定貸付債権	バーゼルⅢ 所要自己資本額	リスクアセットの8%		—
	証券化取引				
	投資信託、投資事業組合				
連結子会社 (除欧州資金・為替、外債)	債権、株、投信、貸出金 リース等	市場VaR	市場6カ月	市場99%	5年
		信用VaR (UL)	信用1年	信用99.9%	—
オペレーショナル・リスク		オペレーショナル・リスク	粗利益配分手法		—

※1 保有期間：原則として業務計画策定サイクルを基に設定

※2 信頼水準：VaRが実現しない確立。信頼水準99%とはVaR実現の確立は1%であり、100回に1回程度発生することを意味する

※3 観測期間：ボラティリティ等計測するための過去統計値の参照期間。短期ほど直近動向に近いが安定性に欠ける

※4 特定貸付債権、証券化取引を除く

※5 CBリパッケージローンのカウンターパーティーデフォルトリスク及びCVAを含む

部門取引区分

部門	配賦対象取引	配賦リスク
ALMグループ	円貨預貸金等・円債合算	市場リスク、信用リスク
	円貨預貸金等 ※1	市場リスク、信用リスク
	純投資株式・投信	市場リスク、信用リスク
証券投資グループ	円債・外債・投資信託、純投資株式	市場リスク、信用リスク
海外店、欧州現法	外債、資金取引、為替	市場リスク、信用リスク
営業本部長	外債、投資信託、純投資株式 資金取引、為替、トレーディング	市場リスク、信用リスク
トレーディンググループ	トレーディング	市場リスク、信用リスク
資金為替G	資金取引、為替	市場リスク、信用リスク
法人部、ALMグループ	政策投資株式	市場リスク、信用リスク
	投資事業組合	信用リスク
信用リスク(貸出金)	貸出金 ※2	信用リスク
信用リスク(特定貸付債権)	特定貸付債権	信用リスク
信用リスク(証券化取引)	証券化取引	信用リスク
連結子会社(除欧州資金・為替、外債)	債券、株式、投信、貸出金、リース等	市場リスク、信用リスク
オペレーショナルリスクグループ	オペレーショナル・リスク	オペレーショナル・リスク
バッファー資本	—	未計測リスク等

※1 ALMグループ保有債券を含む

※2 CBリパッケージローンのカウンターパーティーデフォルトリスク及びCVAを含む

リスク資本配賦計画の策定①

1. 配賦方針の決定

- (1) 配賦原資
- (2) 配賦の前提となるシナリオ
 - ①ベースシナリオ
 - ②ストレスシナリオ

2. 配賦額の決定

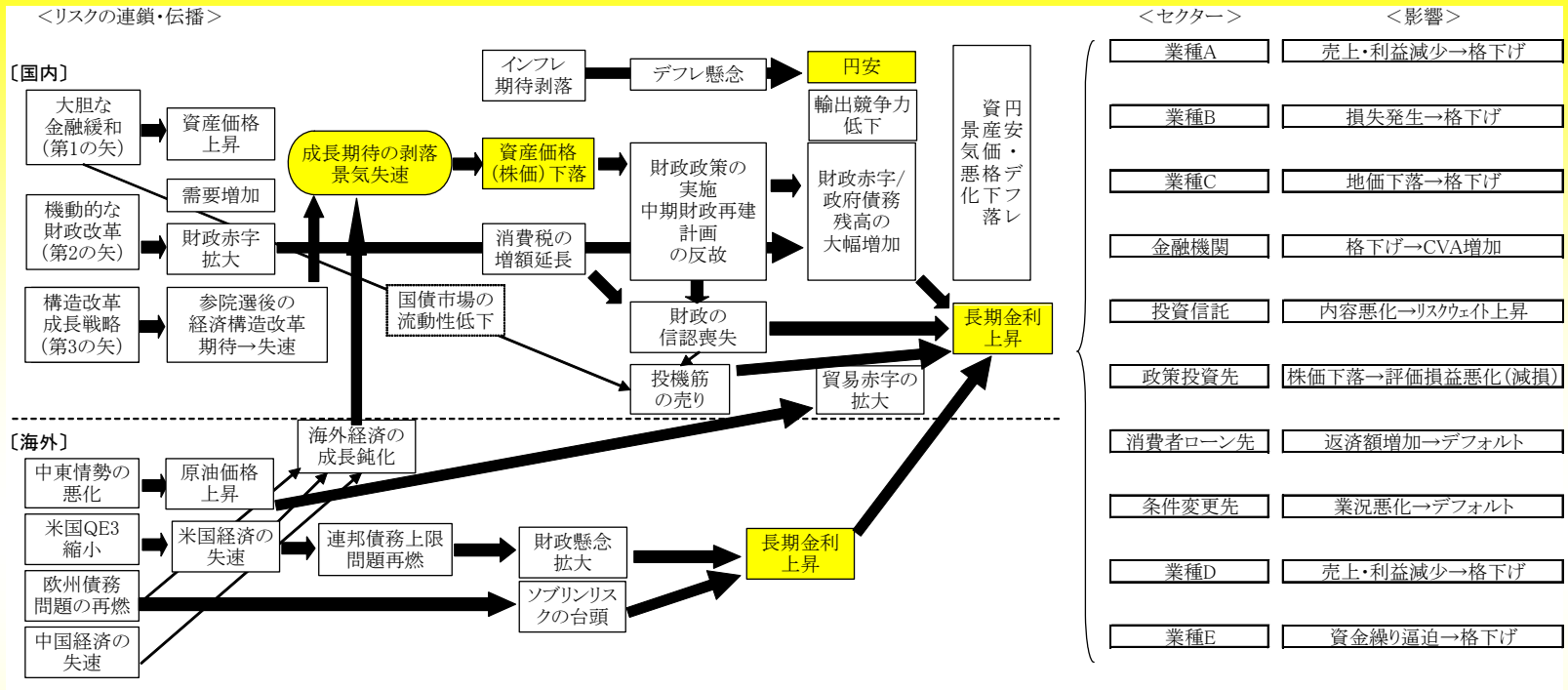
- ①バッファー資本への配賦
- ②業務計画の想定ピーク残へのベースシナリオに基づく配賦
- ③ストレスシナリオに基づく配賦
- ④アラームポイントの設定

3. 有価証券評価損益最下限（ロスカット水準）の決定

- ①評価損益最下限
- ②アラームポイント

リスク資本配賦計画の策定②

<ストレスシナリオ> (例)



<ストレスシナリオへの資本配賦>

市場リスク	①金利リスク	日米国債の中長期利回りの上昇
	②株価リスク	日経平均株価の下落
信用リスク	①PDの上昇 ②不動産評価の下落による回収率の低下 ③住宅ローン、アパートローンのデフォルト増加 ④主要先の格下げ ⑤与信集中の高まり 等	

リスク資本使用状況等のモニタリング

1. 期中モニタリング

(1) リスク資本の使用状況

①使用額、使用率の状況

②使用状況に係る評価

— 資本の十分性

— 資本の効率性

(2) リスク資本の遵守状況

2. 期末評価

(1) 振返り評価

<ストレステスト>ストレステスト①

1. バーゼルⅢ告示への対応（自己資本の充実度評価）
2. 定型シナリオによるストレステスト
3. リバースストレステスト
4. 与信集中に対するストレステスト
5. 地震リスクに対するストレステスト
6. 流動性リスクストレステスト
7. 期間損益シミュレーション
8. 必要に応じ随時実施するストレステスト

ストレステスト②

＜バーゼルⅢ告示への対応＞

- ・ バーゼルⅢ告示第199条、200条への対応として、外部環境変化等によるリスク伝播を想定した規制資本の十分性を確認
- ・ リスク資本配賦計画における蓋然性のあるストレスシナリオに対し、より強いストレスにより実施
- ・ 実施頻度は半期毎

ストレステスト③

<定型シナリオによるストレステスト>

- ・ 予め想定した、一定の金利、株価、為替の変動パターンを使用したシナリオにより、ストレスイベント発生時における対象取引の評価損益変動額と評価損益、および、自己資本比率の変化を確認
- ・ ストレスシナリオ

金利変動	市場金利1%上昇
株価変動	日経平均株価▲1,000円下落
為替変動	為替10円円高

- ・ 実施頻度は日次

ストレステスト④

<リバースストレステスト>

- ・ ストレスイベントの発生により、当行が維持すべき自己資本、または損益の水準を下回ることのないようコントロールすることを目的に、想定損失レベルから逆算
- ・ 想定損失レベル
 - ・ 自己資本比率の規制水準割れ
 - ・ 期間損益の赤字 等
- ・ 実施頻度は半期毎

ストレステスト⑤

<地震リスクに対するストレステスト>

- ・巨大地震の発生を想定した直接被害、間接被害による自己資本等への影響度を評価し、リスク量をバッファークapitalで確保

- ・リスクファクター

オペレーショナルリスク	人的、物的被害	経費、投資の増加
信用リスク	取引先被災によるデフォルト等の上昇、回収率の低下	信用リスクVaRの増加
市場リスク	巨大地震発生による株価下落、投資信託、社債等の価格下落	有価証券評価損益の減少
流動性リスク	復興需要、風評リスクによる預金の流出	資金調達コストの増加
グループ会社 損益への影響	被災によるグループ会社損益の悪化	利益の減少

- ・実施頻度は定期的かつ必要に応じ随時